

## 医心 伝心

# 本年のスギ花粉飛散は 大量飛散

富山県医師会理事 河合 晃充

さて、年が明けて平成31年となりました。スギ花粉の飛散開始が近づいてきています。富山県森林研究所は、11月下旬に県内11カ所で行ったスギ雄花の着花量調査の結果を踏まえて、今年のスギ花粉飛散量の予測を発表しています。それによると今年のスギ花粉飛散量は平野部で1cm<sup>2</sup>当たり約7000個程度と平均値の2974個の2.3倍程度で、平成30年（3541個/cm<sup>2</sup>）と比べると2倍程度の飛散量となります。スギ花粉の飛散量は雄花が着花し始める夏の天候に強く影響を受け、気温が高く降水量の少ない年ほど多く着花する傾向があります。最近では日照時間が最も関係が深いとされています。平成30年の7・8月の平均日照時間は246.8時間で、平年（177.5時間）より70時間程多かったことから、着花に適した気候となりました。このことから、平年よりも非常に多い着花量になったと考えられます。スギ花粉の飛散量は一年おきに豊凶を繰り返す傾向がありますが、ここ数年では平均よりやや多いものの大量飛散ではない年が続いていたことも関係あるかもしれません。

県医師会花粉症対策委員会では5年前より、ウェザーニューズ社のリアルタイムにスギ花粉の飛散状況が把握することができるポールンロボを県内各地に設置し、誰でもが無料で情報が得られるサービスを始めています。今年は県内10カ所に機器を設置し、県医師会のホームページよりリンクという形で情報提供を行う予定です。また、従来の

ダーラム法という方法と比較し、正確性の確認を並行して行っています。今迄の検討では、飛散の状況は正確に反映しているようです。

さて、スギ花粉症に対する新しい治療として始められている舌下免疫療法も導入から数年経ちました。また、久しぶりに新しく3種類の抗ヒスタミン剤が保険適応になり、いずれも長期処方解禁となっています。大量の飛散が予測されることから、何れもいよいよその真価が問われることになりそうです。

花粉の飛散開始は1月からの積算温度がある温度に達すると開花し、飛散が開始されます。そして本格飛散が始まってからの飛散量は降水、風速及び風向といったその時期の気象条件によって大きく変化します。適切な対応や治療法の選択には迅速で正確な情報が必要とされます。県医師会ホームページのアクセス数を調べたところ、リアルタイム花粉飛散状況は比較的多くのアクセスを頂いており、提供情報を利用して頂いているようで安心しました。また、新聞やテレビなどでの飛散予測をご利用していただいている方も多いことと思われま。少しでも皆様に貢献できるように調査および情報発信を行っていこうと思っています。